

表紙に凡例を表示済み

調査者 = 建築物石綿含有建材調査者

調査報告書 = 建築物石綿含有建材調査報告書

テキスト第1版に基づく

### 建築物石綿含有建材調査者講習 筆記試験問題と回答

【問題1】 次の記述の中で、正しいものを選びなさい。

日本で、吹付け石綿の使用が法令で初めて中止されたのは、1972（昭和47）年である。

日本で、石綿の重量パーセントの定義は、今までに4回変更された。

日本で、石綿の重量パーセントの定義が5（%）から1（%）に変更となったのは、1995（平成7）年である。

日本で、石綿の重量パーセントの定義が1（%）規制から、0.1（%）規制となったのは、2005（平成17）年である。

（回答1）

【問題2】 石綿関連疾患に関する記述の中で、正誤の組合せとして正しいものを選びなさい。

ア．世界保健機構は、2010（平成22）年世界で職業による石綿ばく露をうける人は、1億2,500万人に及び、中皮腫と石綿関連肺がんと石綿肺による死者が毎年57万人になっていると発表した。

イ．石綿関連疾患は、石綿ばく露量と潜伏期間により生じやすい疾患が異なる。

ウ．胸膜プラークは石綿ばく露量が少ない人にも生じる良性疾患であり、悪性中皮腫は石綿ばく露量が少ない人にも生じる悪性疾患である。

エ．石綿関連疾患の診断基準としては、1997（平成9）年のストックホルム・クライテリアが有名である。

	ア	イ	ウ	エ
	誤	誤	正	誤
	誤	正	正	正
	正	正	正	誤
	誤	正	正	誤

（回答2）

【問題 3】石綿関連疾患に関する記述の中で、正誤の組合せとして正しいものを選びなさい。

- ア．職業ばく露の石綿の濃度は、吹付部では20～100 ( f / m L ) ( 2万～10万 ( f / L ) ) で22.5 ( m ) 離れた石綿濃度を46 ( f / m L ) ( 4万6,000 ( f / L ) ) と吹付け石綿が周辺に広く拡散したことが報告されている。
- イ．吹付け石綿のある部屋の濃度として、大気とほぼ同程度の場合、大気濃度より少し高い10.数 ( f / L ) 程度、1 ( f / L ) ～数十 ( f / L ) という場合が多い。
- ウ．室内の石綿濃度測定結果が3 ( f / L ) で10 ( f / L ) 以下だったので、所有者に心配ないことを説明した。
- エ．日本には石綿の環境濃度として、10 ( f / L ) が定められている。

	ア	イ	ウ	エ
	正	正	誤	誤
	正	正	正	誤
	正	正	誤	正
	正	正	正	正

( 回答 3 )

【問題 4】リスク評価、建築物調査とリスク・コミュニケーションに関する記述の中で正しいものを選びなさい。

- ア．石綿濃度と健康影響の評価モデルの参考例には、日本産業衛生学会、WHO、EPA、Hughesモデル等がある。
- イ．飛散した石綿は10時間程度沈降せず、再飛散する。
- ウ．石綿の濃度と健康影響、リスク等について詳しく知りたい場合は、文京区立さしがや保育園検討委員会報告書、佐渡市両津小学校報告書が参考となる。
- エ．吹付け石綿の建物管理の不備で中皮腫が起き賠償責任が問われた例として、尼崎の工場周囲のケースが有名である。

- 正しいのはア、イ
- 正しいのはア、イ、エ
- 正しいのはア、イ、ウ
- 正しいのはア、イ、ウ、エ

( 回答 4 )

【問題5】石綿含有建材調査者の心構えとして、12項目が挙げられている。カ、キ、ケ、サの、  
 の□部分に該当する語句の組合せとして正しいものを選びなさい。

- ア．建築物などの意匠・構造・設備に亘る知識を有すること
- イ．建築物などに使用されている建材に関する知識を有すること
- ウ．建築物などの施工手順や方法に関する知識を有すること
- エ．建築物などの設計図書や施工図などを解析し、必要な情報を抽出できること
- オ．石綿が使われている建材に関する知識を有すること
- カ．建築物などに使用されている建材の□などに関する知識を有すること
- キ．石綿□技術に関する知識を有すること
- ク．石綿分析結果の解析力を有すること
- ケ．石綿含有建材の□方法に関する知識を有すること
- コ．石綿含有建材の除去などの作業方法とその工法選択に関する知識を有すること
- サ．石綿のもたらす社会的な□を理解し石綿含有建材調査者の業務に反映できる  
 こと
- シ．中立性を保ち精確な報告を実施する力を有すること

	カ	キ	ケ	サ
	採取方法	分析	維持管理	危険性
	採取方法	製造	維持管理	危険性
	使用方法	分析	生産技術	有用性
	使用方法	製造	生産技術	有用性

( 回答5 )

【問題 6】吹付け石綿等の変遷について説明した記述の中で、誤っているものを選びなさい。

国内では戦前から石綿が使用されている。吹付け石綿が木造建物の空襲時の耐火性向上のため、1943（昭和18）年頃から都市部を中心に多数施工された。

1975（昭和50）年に吹付け石綿の施工が禁止されたが、石綿の定義が5（%）超であったため、5（%）以下配合された材料は継続して吹付け施工された。

1980（昭和55）年に業界自主規制により石綿含有吹付けロックウール（乾式）の施工使用は中止された。

1980（昭和55）年以降も個別認定を受けている湿式吹付け材の使用は継続された。

（回答 6）

【問題 7】石綿に関する次の記述の中で、誤っているものはどれかを選びなさい。

石綿は国内ではほとんど産出されないため、大半は海外からの輸入によって使用された。クリソタイルは、主にカナダ、オーストラリアから、アモサイト、クロシドライトは南アフリカ、ブラジルなどから、トレモライトは、チリから輸入されていた。

石綿を使用していたメーカーは、石綿の使用削減に取り組んできており、順次建材の無石綿化に対する取り組みを推進してきた。

吹付け材以外も石綿を含む建材の使用は禁止されているため、新たな利用はできないが、既存の建物にすでに使用されている建材については、継続使用を禁止されていない。

（回答 7）

【問題 8】次の記述の中で、誤っているものを選びなさい。

石綿は、国内での産出量は少ないが、戦前は、国内産でまかなわれてきた。戦後は効率的な採鉱が困難なことから、大半は海外からの輸入によって使用された。

石綿の輸入量は、戦後増加し、1970（昭和45）年～1990（平成2）年は、25～35万（トン）程度輸入されていた。

石綿は蛇紋石、角閃石に含まれる鉱物の一種で、天然に産出される発がん性物質である。優先的に調査すべき建物は鉄骨造や鉄筋コンクリート造などの建築物であり、国交省の調査ではおよそ280万棟が調査対象となると考えられる。

（回答 8）

【問題 9】耐火性能は、耐火建築物の階によって要求が異なるが、次の記述の中で正しいものはどれか選びなさい。

耐火性能は、「1時間耐火」などと表現され、1時間の加熱でも構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じない性能をいう。

同じ石綿含有吹付け材であれば、「1時間耐火」よりも「2時間耐火」の方が吹付け層が厚く、厚みを規制しているだけで、指定番号や認定番号は変わらない。

柱やはり、階段などは、最上階から数えて2～4以内の階、5～14以内の階、更に15以上の階と耐火時間が長くなる。これは避難等を配慮した結果である。

耐火性能が要求されるのは地上部分だけである。

(回答 9)

【問題 10】調査のために用意された建築図面の取り扱いで注意すべきことがある。

次の注意点の中で、誤っているものはいくつあるか選びなさい。

ア．使用目的と不要な部分の閲覧・複製をしない旨の説明

イ．説明した目的以外のために閲覧・複製してはいけない。

ウ．複製であっても、紛失してはいけない。

エ．複製であっても、使用後に返却しなければならない。

0 (なし)

1 つ

2 つ

3 つ

(回答 10)

【問題 1 1】 次の記述について  に入る語句を下から選びなさい。

建築基準法の防火規制では、建築物の用途や規模に応じて、居室や廊下・階段などの壁や天井の仕上げを、準不燃材料や難燃材料とすることが義務付けられている。こうした規制を  という。

- 防火地域
- 特殊建築物
- 耐火建築物
- 内装制限

( 回答 1 1 )

【問題 1 2】 次の表には、建物の様々な部位が示されているが、この中で主要構造部に該当する部位の組合せとして、正しいものを選びなさい。

	壁	柱	はり	屋根	回り舞台の床	局所的な小階段	屋外階段

印は、該当箇所を示す。

( 回答 1 2 )

【問題 1 3】防火区画の形成部分にも耐火構造等が求められ、次の 4 つの観点から区画することで延焼を防止する。各観点の記述の中で誤っているものを選びなさい。

- 面積区画：一定面積ごとに防火区画し、水平方向への燃え広がりを防止し、いちどに避難すべき人数を制御している。1,500～3,000 平方メートル（建築物の構造や用途などによって異なる）ごとの区画。
- 水平区画：水平面を区画するもの。全ての床を耐火構造にすることで、下階での火災の影響を受けないようにする。
- 竪穴区画：階段や吹き抜け、エレベーターのシャフト、パイプシャフトのように縦方向に抜けた部分は、煙突化現象によって有害な煙や火災の熱を容易に上階に伝えてしまう。また、階段は避難時の重要な経路であり、ここが使用不能になることで被害が拡大する。
- 異種用途区画：同じ建物の中に異なる用途が混在し、それぞれの管理形態（営業時間等）が異なる場合（例えば複数のテナントが入るデパートと店舗・飲食店など）、火災発生の条件がそれぞれ異なるほか、発生に気づきにくい。このため、用途の異なる部分を区画することで被害の拡大を食い止めるものである。

（回答 1 3）

【問題 1 4】次の記述の中で、誤っているものを選びなさい。

- ケイ酸カルシウム板には一種と二種がある。一種はレベル 2 の建材である。厚さは 6・8・12（mm）などと薄いので、ケイ酸カルシウム板二種と見分けることができる。
- ケイ酸カルシウム板二種は 1975（昭和 50）年ごろから 1984（昭和 59）年まで吹付け耐火被覆材に代わって化粧仕上げ耐火被覆材として使用された。
- 石綿耐火被覆板は 1970（昭和 45）年ごろから使用された。工場にてアモサイトなどの石綿を基材としてセメントと水とを混ぜ合わせ、一定サイズの石綿含有耐火被覆板が製造された。現場で寸法に合わせて切断し、鉄骨造の建築物のはり、柱などに耐火被覆材として貼り付けられた。石綿とセメントの比率は 6：4 であった。
- 石綿を含有している保温材は、1920 年代から建築物、構造物、船舶などに多く使用されていた。高温や低温の液体用の配管用鋼管、タンク、タービン、焼却炉の外周部などの保温、断熱、防露を目的として使用された。

（回答 1 4）

【問題 1 5】石綿含有パーライト吹付けは、昭和 30 年代後半から 50 年代にかけて建築された R C 構造の集合住宅で天井仕上げ材として多用された。この使用目的として誤っているものを選びなさい。

- 吸音
- 断熱
- 結露防止
- 耐火被覆

( 回答 1 5 )

【問題 1 6】ある鉄骨造 10 階建て建築物の石綿調査を依頼され、鉄骨部の耐火被覆として使用が想定される石綿建材の組合せとして正しいものを選びなさい。

- ア．石綿含有ロックウール吹付け
- イ．石綿含有パーライト吹付け
- ウ．ケイ酸カルシウム板第二種
- エ．石綿含有保温材

- アとイ
- アとウ
- アとエ
- すべて

( 回答 1 6 )



【問題 17】建築図面から石綿含有建材が使われているかどうかを判定する場合の記述で誤っているものを選びなさい。

図面に記載されている製品名の建材が使われており、施工年月から製造年月を推測でき、メーカーが正確な情報を開示している場合に限る。

図面を借用する際にはその図面が調査対象の建築物の図面であることを建築物の所有者・管理者に確認しておく必要がある。

建築図面をチェックする際に、耐火性能や断熱性、吸音性能が求められる部位には、その性能を何によって実現しているかを確認して行う。

図面の一般共通仕様書に「トムレックス吹付け」と記載されているのでレベル1と判定できる。

(回答 17)

【問題 18】天井裏には、石綿が施工されていることがある。

次の表に示すケースで、吹付け工法により施工された石綿含有建材が、天井裏に隠されている可能性が高く、調査しなければならない箇所を選びなさい。

	竣工年	建築物の構造と種類	箇所
	昭和 60 年	S R C 造の商業ビル	地下駐車場地下 2 階の天井裏
	平成 16 年	S 造の事務所ビル	中間階の男子トイレ天井裏
	昭和 25 年	木造 2 階建ての事務所	1 階執務室の天井裏
	昭和 48 年	R C 造の集合住宅	最上階の和室木目化粧ボードで施工された天井裏側のスラブ下

(回答 18)

【問題 19】建築物外観の観察についての記述の中で、誤っているものを選びなさい。

調査対象建築物から離れて搭屋や煙突の位置などを確認しようとした。  
外観から、外壁の建材、増築の形跡、S造であるか否かなどを推測しようとした。  
北面の外壁内面に吹付け石綿がないか検討するため方位を確認した。  
定礎の記載を確認し、建物構造がS造であることが判明した。

(回答 19)

【問題 20】建物の調査における行動の記述の中で、誤っているものを選びなさい。

破壊が許されない建物で、最上階は和室で点検口がなかったため、見ることはできなかったことを記載した。  
最上階の点検口を覗いたら、折板屋根で吹付け石綿ではなかった。発泡ポリエチレンだったので、それを記載し、無石綿と判定した。  
機械式立体駐車場の内部調査は危険であるから専門業者に依頼した。  
木造車庫なので吹付け石綿があるわけがないと想定し、現地調査を省略した。

(回答 20)

【問題 21】吹付け石綿の劣化度判定の記述の中で、誤っているものを選びなさい。

人為的な傷やへこみが局所的には見られるが、全体としては表面劣化が見られないので「やや劣化」とした。  
状態は良いが吹き放し工法であるので「やや劣化」とした。  
全体の状態は良いが、漏水による局部的損傷が見られるので「やや劣化」とした。  
一部に自然脱落が見られたため「劣化」とした。

(回答 21)

【問題 2 2】 次の状況において、はり断面図に示す箇所の中で試料採取に適する場所を選びなさい。

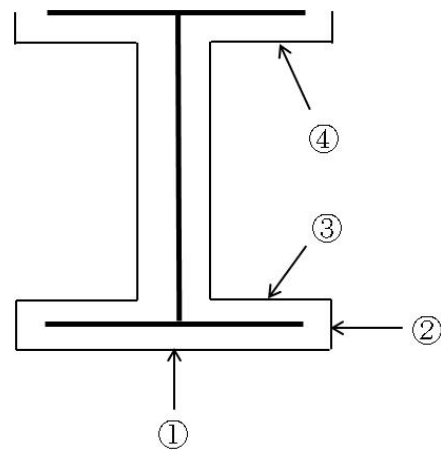
「1977（昭和 52）年竣工の S 造事務所ビルの基準階天井裏にあるはりからサンプルを採取する。吹付けロックウールが施工されていると目視で確認した。表面にセメントスラリーの吹付け仕上ががされておらず、表面が毛羽立ち、劣化が進んでいると推測される。しかし、石綿を含む建材かどうか不明である。」

下側フランジの下部中央

下側フランジの木口側

下側フランジのウェブ側（上部の中央）

上側フランジのウェブ側（下部の中央）



（回答 2 2）

【問題 2 3】 次の表の（ア）と（イ）に入る語句の組合せとして正しいものを選びなさい。

調査種別	建築物調査	改修の事前調査	解体の事前調査
調査者	調査者	調査者および石綿作業主任者、工事関係者合同	調査者および石綿作業主任者、工事関係者合同
目的	適正な維持管理	（ア）	労働者保護や周囲への飛散防止
対象部屋	建築物内の全館全部屋	対象部屋および隣室、上下階	建築物内の全館全部屋
石綿レベル	1 および 2	（イ）	1・2・3
調査手法	目視・採取	目視・採取	目視・採取
非破壊調査かどうか	基本は非破壊調査	許可された部位の破壊調査を含む	破壊調査まで行う
高所・有毒ガスなどの危険区域	原則として調査しない	可能な限り調査する	可能な限り調査する
最重点項目	調査漏れのない石綿含有建材の有無の判定	調査漏れのない石綿含有建材の有無の判定	調査漏れのない石綿含有建材の有無の判定
主な装備	通常の装備	通常の装備に加えてファイバースコープなど	通常の装備に加えて、パール、スモークテスターなど
成果物	石綿含有建材の有無の調査結果	石綿含有建材の有無の調査結果	石綿含有建材の有無の調査結果

	ア	イ
	建築物の適正な維持管理	1 および 2
	労働者保護や周囲への飛散防止	1 および 2
	建築物の適正な維持管理	1・2・3
	労働者保護や周囲への飛散防止	1・2・3

（回答 2 3）

【問題 2 4】建築物の石綿含有建材調査のフローで、語句の順番が正しいものを選びなさい。

調査依頼    ア        イ        ウ        エ        報告書提出

	ア	イ	ウ	エ
	調査費用見積・契約	現場調査	報告書作成	調査済票を貼付
	図面調査	試料採取	劣化度写真判定	使用器具洗浄
	調査計画	現場調査	試料採取	劣化度判定
	ヒアリング	試料採取	分析結果確認評価	劣化度判定

( 回答 2 4 )

【問題 2 5】現地調査での記録方法として留意しておきたい記述の中で、誤っているものを選びなさい。

調査者が調査対象部屋内でメモ書きなどによる記録を残しておくことや、写真を多めに撮っておくことは、後の調査報告書の作成に有効である。

現地調査報告書に掲載する写真は対象物の素材感の確認や自分のメモ用のために、対象物の真正面から至近距離で撮影することが望ましい。

デジタルカメラをぶついたり落として壊したりしないように留意する。またバッテリー切れなどに対処するために、予備のバッテリーを持参する。

同じ階に、同じような空調機械室などが2室ある場合でも、調査個票はそれぞれ作成する。入路（ドア位置）や窓の位置、採取位置などを記入する。

( 回答 2 5 )

【問題 2 6】現地調査時の調査者の労働安全衛生上の留意点に関する記述の中で、正しいものを選びなさい。

夏季に高温の部屋（例えば貯湯タンクのあるボイラー室など）への入室は、作業の快適性が重要なので、半袖、サンダル履きなど身軽な装備とした。

8尺脚立を使用してもわずかに届かない天井面からの採取時に、足掛かりに利用できる配管を足場として作業した。

調査者は6カ月以内ごとに健康診断を受けること。また調査者を雇用する事業主は、その結果を当該業務に従事しないことになった日から30年間保存すること。

石綿含有建材の採取の際には、水などを散布し飛散の抑制に努めた。

( 回答 2 6 )

【問題 27】現地調査時の試料採取に関する記述の中で、正しいものを選びなさい。

採取時の粉塵飛散を防止するため、廊下側のドアを閉め、換気扇を入れ、室内の浮遊粉塵の減少に努めた。

採取者自らが石綿粉塵を吸わないように使い捨てマスク(サージカルマスク) 区分DS1を使用した。

採取箇所がわかるように、ドア付近にある電気スイッチの近傍から採取した。

採取箇所の下に広めの先行養生をし、脚立に試料の小片が落ちたので、濡れたウエスで拭きとった。

(回答 27)

【問題 28】建材製品中の石綿分析(定性分析)に関する記述について□内に入る語句として正しいものの組合せを選びなさい。

□アによる分散染色法と□イを用いた定性分析により、その□ウと鉱物学的特性を確認し、石綿鉱物の有無を確認する。また、□イを用いた定性分析において主成分が□エと判定された場合は、別途、「吹付け□エを対象とした定性分析」を実施し石綿の有無を判定する。

	ア	イ	ウ	エ
	電子顕微鏡法	X線回折法	光学的特性	パーミキュライト
	位相差・分散顕微鏡	X線回折法	形状	パーミキュライト
	位相差・分散顕微鏡	偏光顕微鏡	形状	ロックウール
	偏光顕微鏡	X線回折法	形状	ロックウール

(回答 28)

【問題 29】 建材製品中の石綿分析（定性分析）を位相差・分散顕微鏡法及びX線回折法で行った場合に、石綿含有のありなしの判定として、正しい組み合わせを選びなさい。

- ア．X線回折法でクリソタイルの回折ピークあり、位相差・分散顕微鏡法でクリソタイルの繊維状粒子が3,000粒子中に3本確認された。
- イ．X線回折法で石綿の回折ピークなし、位相差・分散顕微鏡法でクリソタイルの繊維状粒子が4本確認された。
- ウ．X線回折法でクリソタイルの回折ピークあり、位相差・分散顕微鏡法でクリソタイルの繊維状粒子が4本確認された。
- エ．X線回折法でクリソタイルの回折ピークあり、位相差・分散顕微鏡法でクリソタイルの繊維状粒子は確認されなかった。

	ア	イ	ウ	エ
	含有あり	含有あり	含有あり	含有あり
	含有なし	含有あり	含有あり	含有なし
	含有あり	含有あり	含有あり	含有なし
	含有あり	含有なし	含有あり	含有あり

（回答 29）

【問題 30】 建材製品中の石綿分析についての記述の中で、正しいものを選びなさい。

建材中石綿分析の対象鉱物は、クリソタイル、アモサイト、クロシドライト、トレモライト、アクチノライト、パーミキュライトの6種類である。  
 定性分析による判定を実施せずに、定量分析のみで石綿含有を判定した。  
 解体予定の建物に使用されている建材で、過去にクリソタイル・アモサイト・クロシドライトの分析を実施し、石綿含有なしと判定されているので再調査しなかった。  
 定性分析で石綿含有ありと判定され、含有率の確認が必要な場合は、X線回折法（基底標準吸収補正法）による定量分析を実施する。

（回答 30）

【問題 3 1】建物の調査の結果を取りまとめたものが、現地調査総括票となる。現地調査総括票に記載する項目と、その内容に関する記述の中で、正誤の組合せが正しいものを選びなさい。

- ア . 石綿調査履歴……調査会社実施、調査会社名……(株)国土建物調査コンサルタント、調査時期……平成 17 年 10 月 1 日、分析会社名……国際石綿調査センター(株)
- イ . 竪穴区画……エレベータシャフト(以下「EVシャフト」)内部 1 ~ 3 号機( 3 階、6 階、8 階で劣化度判定)
- ウ . 部位……大はり、小はり、柱、層間部塞ぎ
- エ . 劣化度……顕著な劣化
- オ . 環境調査……早期の除去工事の計画が必要である。

	ア	イ	ウ	エ	オ
	誤	正	正	正	誤
	正	誤	誤	誤	正
	誤	正	誤	正	誤
	正	正	正	誤	誤

( 回答 3 1 )

【問題 3 2】調査報告書の作成についての記述の中で、誤っているものを選びなさい。

- 調査報告書の主要部分は現地調査総括票、現地調査個票・写真集である。
- 現地調査総括票は調査した建築物の吹付け材および保温材・断熱材・耐火被覆材の石綿含有の有無を所有者に報告する。
- 自治体は、現地調査総括票を元に建築物データベースに保存する。
- 現地調査総括票は記入項目に不明及び該当内容がない場合は空欄とする。

( 回答 3 2 )



【問題 3 3】調査報告書の作成についての記述の中で、正しいものを選びなさい。

調査報告書は表紙のみ統一されたものを使用し、次頁以降の実質的な調査報告は今までで使用してきた社内様式や自由表記でよい。

調査個票は、似たような部屋が複数箇所ある場合は、これをまとめて1枚として構わない。同じく、同一仕様の階段が2箇所ある建築物でも同様である。

現地調査総括票に記入する建築物所在地は地番・家屋番号などではなく、住居表示（現在の郵便物などが配達される住所）を記載する。

今回調査できなかった箇所（入室できず未調査の部屋）欄の記載では、その理由が建築物所有者に由来するものであれば、空欄としてよい。

（回答 3 3）

【問題 3 4】現地調査総括票における今回調査箇所の記入時の注意事項について、正しいものを選びなさい。

堅 穴 区 画 ： E Vシャフト内部などの堅穴空間について記載する。ただし階段は各階にあることにより、また煙突は最下階の点検口がある部屋と煙突トップ部がある屋上またはP H階が関係箇所であることからこの2つは堅穴区画には分類せず各階の欄に記載する。

調 査 手 法 ： 検体採取した場合は「採取」に をし、検体採取をしなかった場合は「目視」の項目に をする。例えば、煙突用石綿断熱材、屋根用折板石綿断熱材など石綿含有が明確な物であっても、検体採取を割愛してはならない。

劣 化 度 ： 劣化度の判定は調査者の技術として重要であるが、判定能力には個人差があるので判定に自信がないもしくは、不明瞭である場合は「不明」もしくは「空欄」としておく。

参照ページ ： 調査メモを基に清書した個別の部屋の状況（簡単な間取り、採取位置など）を簡潔に記入し添付した個票のページ番号を記入する。

（回答 3 4）

【問題 3 5】総括票および個票の記入についての記述の中で、誤っているものを選びなさい。

「調査者からの今後の維持・管理のアドバイス」では、例えば特定の人物だけが年に数回しか入室しない部屋と、定常的に不特定多数の人が利用する部屋の場合では、アドバイスが異なる記載となることがある。

個票の作成時に、添付する写真の強調したい部分を矢印で誘導したり写真に注釈をつけて、わかりやすく見やすい個票作成に努める。

図面が無く、また入室調査した部屋の室名がわからない場合、個票の室名や図面などの欄は空欄とし、写真のみを添付する。

今回調査で依頼主の都合や安全上の理由で、立入調査できなかった箇所についての記述は、追加調査の必要性を引き継ぐ意味や調査の瑕疵責任発生防止の意味からも重要である。

( 回答 3 5 )

【問題 3 6】石綿含有建材に関する記述の正誤について、正しいものを選びなさい。

ア．石綿含有建材名リストのうちレベル3建材は90(%)以上ある。

イ．レベル3の石綿含有建材の種類は約1,000種類ある。

ウ．レベル3の石綿含有建材には、接着材、パテ、混和剤も含まれる。

エ．1995(平成7)年に輸入された石綿建材の93(%)は建材として使われ、スレート材全体で60(%)超使われた。

	ア	イ	ウ	エ
	正	正	正	正
	正	誤	正	正
	正	正	正	誤
	正	誤	正	誤

( 回答 3 6 )

【問題 37】石綿含有建材の製造時期に関する次表の□にあてはまるものを選びなさい。

1980年  
1987年  
1992年  
2004年

種類 (施工部位)	建材の種類	製造時期
内装材 (壁・天井)	石綿含有スレートボード・フレキシブル板	1952 ~ 2004
	石綿含有スレートボード・平板	1931 ~ 2004
	石綿含有スレートボード・軟質板	1936 ~ 2004
	石綿含有スレートボード・軟質フレキシブル板	1971 ~ 2004
	石綿含有スレートボード・その他	1953 ~ 2004
	石綿含有スラグせっこう板	1978 ~ 2003
	石綿含有パルプセメント板	1958 ~ 2004
	石綿含有ケイ酸カルシウム板第一種	1960 ~ 2004
	石綿含有ロックウール吸音天井板	1961 ~ 1987
	石綿含有せっこうボード	1970 ~ 1986
	石綿含有パーライト板	1951 ~ 1999
	石綿含有その他パネル・ボード	1966 ~ 2003
	石綿含有壁紙	1969 ~ 1991
耐火間仕切り	石綿含有ケイ酸カルシウム板第一種	1960 ~ 2004
床材	石綿含有ビニル床タイル	1952 ~ □
	石綿含有ビニル床シート	1951 ~ 1990
	石綿含有ソフト巾木	住宅用ほとんどなし

( 回答 37 )

【問題 38】石綿含有建材の製造時期に関する次表の  にあてはまるものを選びなさい。

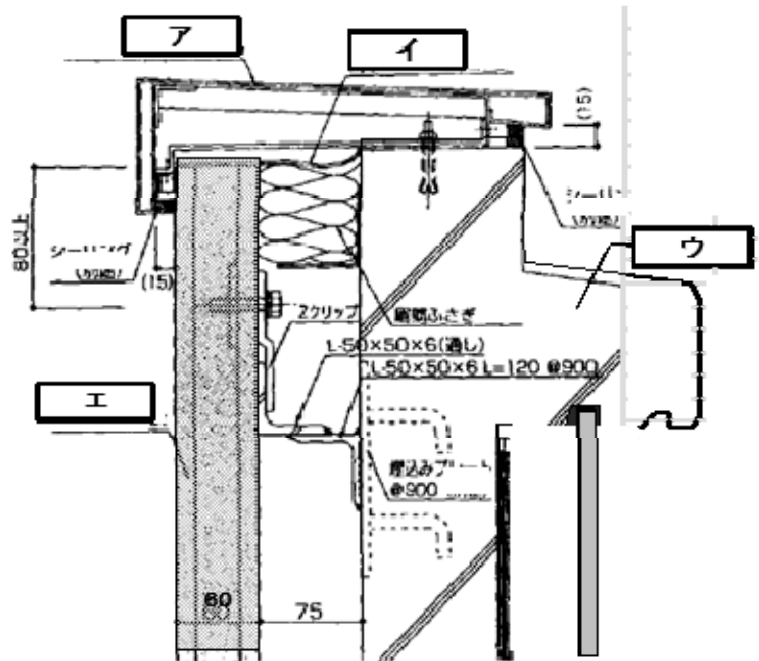
1980年  
1987年  
1992年  
2004年

種類 (施工部位)	建材の種類	製造時期
外装材 (外壁・軒天)	石綿含有窯業系サイディング	1960 ~ 2004
	石綿含有建材複合金属系サイディング	1975 ~ 1990
	石綿含有押出成形セメント板	1970 ~ 2004
	石綿含有ケイ酸カルシウム板第一種	1960 ~ 2004
	石綿含有スレートボード・フレキシブル板	1952 ~ <input type="text"/>
	石綿含有スレート波板・大波	1931 ~ 2004
	石綿含有スレート波板・小波	1918 ~ 2004
屋根材	石綿含有住宅屋根用化粧スレート	1961 ~ 2004
	石綿含有ルーフィング	1937 ~ 1987
煙突材	石綿セメント円筒	1937 ~ 2004
設備配管	石綿セメント管	~ 1985
建築壁部材	石綿発泡体	1973 ~ 2001

( 回答 38 )

【問題 39】次図のうち、押し成形セメント板が使用されている部分を選びなさい

ア  
イ  
ウ  
エ



(回答 39)

【問題 4 0】 次の事務所などの天井仕上げ材として多く使用されている石綿含有ロックウール吸音天井板（レベル 3）を説明した記述の中で正誤の組合せとして正しいものを選びなさい。

- ア．ロックウールは高炉スラグや玄武岩などを約 1,500（ ）で溶融し、溶融物を数（ $\mu\text{m}$ ）の細かい繊維状にしたものである。石綿含有ロックウール吸音天井板は、これにバインダーを混ぜて成形し、化粧塗装したもので、軽量・不燃性・優れた吸音性を持つ。
- イ．施工法には、捨貼り工法・直貼り工法・システム工法などがあるが、現在すべての工法が採用されている。
- ウ．リニューアル工事では、表面を再塗装され使用されることも多く、新旧見分けが付きにくい。各メーカー一斉に石綿不含有になったので、施工年度で石綿含有の有無が判別できる。
- エ．一般建築物・事務所、学校、講堂、病院などの医療施設などの天井に不燃・吸音天井板として多く使用されている。

	ア	イ	ウ	エ
	正	誤	正	正
	正	正	誤	正
	正	誤	誤	正
	正	正	正	正

（回答 4 0）